

いくつかの噂の顛末

美術館の増改築工事が始まってしばらくのこと、ある噂が囁かれるようになりました。工事は区画ごとに進められるので、そのつど作業区画を仕切って仮の通路を作るのですが、時折、工事関係者の知らない内に仕切りが変更されているというのです。ごく稀に、仮通路を進んでいると、そこからは着くはずのないところへ着いてしまったこともあったそうです。

工事現場につきものであるであろうありふれた怪談噂が下火になりかけた頃、別の噂が姿を現わしました。美術館の暗がりである陰謀が進行している、通路の改変はその結果にほかならない。陰謀は「美術館迷路化計画」と呼ばれる……

最初の噂と第二のそれがもともとリンクしていたのかどうかも定かではないのですが、さらに尾緒はついて、ある文書がひそかに回覧されたといえます。

文書の内容は、いわゆるホワイト・キューブとしての美術館に対する、昔ながらの批判を骨子にしているとのことでした。近代に成立した制度としての美術館の展示空間は、美術作品を純粋な姿で鑑賞できるように、夾雑物を排除する。しかしそれは、作品が成立した歴史的な諸条件を隠蔽せずに行かない。美術館迷路化計画は美術館をたえざる改変に巻きこむことで、美術館そして美術自体がはらむ歴史性をあらわにすることだろう。現在の館内の状態はこの計画の成果であって、上から垂れるシートを絵画と、シートで包まれた物を彫刻として見ることはできはずだ。美術はそれを見るまなざしによって、いつどこなりと成立する……

しかし美術館は結局、何ごともなく再開館にこぎつきました。残り火のように囁かれた噂は、人知れず暗闘がくりひろげられた末、陰謀は潰えたのだと伝えます。ただ噂のあるヴァージョンによると、陰謀に加担した者は人だったにせよ、彼らは、建物としての美術館が宿す諸力の内、一つの傾向の憑代にすぎなかった。また別のヴァージョンによれば、一切は、工事で眠りについた美術館が紡いだ夢なのだという。とすればいずれにせよ、美術館が存続するかぎりいつか、陰謀が再燃する日が来ないともかぎらないということになるのでしょうか。(lk)

